

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 575 号	氏名	中村 文
学位審査委員	主 査	戸田一雄	
	副 査	村田比呂司	
	副 査	鮎瀬卓郎	
論文審査の結果の要旨 1 研究目的の評価 本研究は、成長期の不正咬合の発現が、その後の咀嚼機能の発達および下顎骨形態の成長に与える影響に関して、同一個体で同時に検証したもので、研究目的として妥当である。 2 研究手法に関する評価 マウスに咬合誘導装置を装着することで、人為的に不正咬合モデルマウスを作製した。その後の成長を 3D 画像にて解析し、顎骨の成長変化を観察している。また、咀嚼運動に関しては、磁気センサーを利用した 3 次元顎運動計測装置と筋電図測定装置を用いて解析を行っている。さらに、適切な統計学解析も行われており、研究手法も妥当である。 3 解析・考察の評価 成長期の不正咬合の発現によって、下顎骨の成長抑制や骨密度の低下、また、粉碎臼磨機能や咀嚼筋活動が低下した。今回に結果から、正常な形態と機能の発達を促すために、不正咬合はできるだけ早期に治療を行うべきであることが示唆された。これらの研究結果と考察内容は高く評価でき、今後の研究の展開が期待できる。 以上のように本論文は、成長期における不正咬合の形態および機能への影響に関する研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(歯学)の学位に値するものと判断した。			